

cafe talk_15

15号の制作に関わったクリエイターと、enocoスタッフによるカフェトーク。
今回は安威川ダムが建設中の茨木市在住の本村さんにおまちの魅力について伺いました。



本村 信裕さん デザイナー

1968年12月大阪生まれ、大阪育ち。セールスプロモーション会社勤務を経て、現在WEB制作会社デザイナー。地元のイベント(音楽・アート・食など)に複数関わり、企画やツール等のディレクション・デザインを手掛ける。

ニノーバルコーヒー江之子島店

enoco地下1階 営業時間:11:00-18:30(月曜定休)

ニノーバルにホットサンドが仲間入り!さくさくパンの中からチーズや卵がとろ~り。アボカドやサーモン、ベーコンと種類も豊富にご用意しております。また、不定期で食パンの販売もしておりますので、お気軽にお声かけください。ドリンクはテイクアウトOK!食後のコーヒーにご利用くださいませ。



— 今日は特集が安威川ダムということで、地元・茨木市出身・在住・在勤(!)の本村さんにお願いしました。ずっと茨木にお住まいなんですか?

本村 住みやすいので今まで出たいと思ったことがないですね(笑)交通の便もいいですし。でも北の方に行くと豊かな自然もある。週末には地元の野菜を買いに出かけたりすることもあります。

— 取材を兼ねて、本村さんと一緒にダム建設予定地や周辺の里山めぐりをしましたが、こんなに自然と資源あふれる街だとは思っていませんでした!それにダムファンづくり会の方々を通して、いろんな活動も盛んな街なのだと地元の力を感じました。

本村 私も「茨木麦音フェスト」というクラフトビールと音楽のイベント(毎年9月開催)や「茨木音楽祭」(毎年5月開催)の実行委員をしています。住んでいる人同士のつながりが比較的強い街かもしれませんね。

— 今回もファンづくり会の河村友信さんからのご紹介でした!

本村 地元の古くからのつながりです(笑)いろいろなつながりから様々な面白い人に出会える良い街だと思います。今回のデザインでも、うねうねとしている部分は川やつながっていく関係をイメージします。

— ダムを通してつながりがさらにうねうねとのびていくといいですね!



大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco]
Enokojima Art, Culture and Creative Center, Osaka
Prefecture

アートやデザインの創造力で、都市を元気にすることを目指し2012年4月にオープン。展示室や多目的室のレンタル事業を行うほか、企画展や公演、セミナー・ワークショップなどを開催し、クリエイティブな人や情報が行き交うプラットフォームとなることを目指しています。

〒550-0006 大阪市西区江之子島2丁目1番34号

開館時間:10:00~21:00(ただし展示室は催しによりオープン時間が異なります)

月曜・年末年始休館

電話 06-6441-8050 | FAX:06-6441-8151

メール art@enokojima-art.jp

www.enokojima-art.jp

enocoニュースレター 15 2017年10月発行

| 発行 | 大阪府立江之子島文化芸術創造センター

| 編集 | 高坂玲子(enoco企画部門)

| 表紙・特集ページデザイン | 本村信裕

| イラスト(エノケン、似顔絵) | タダユキヒロ

| アートディレクション | 後藤哲也(000 Projects)

| デザイン | 小池一馬(000 Projects)

enocoニュースレターは、enocoが年4回発行する情報誌。

(2017年度は13号14号を合併号とし、年3回の発行となります)

enocoで起こっていることや、enocoにかかわる人々が日々考えていることをお伝えしていきます。



[アクセス]

大阪市営地下鉄千日前線・中央線「阿波座駅」下車、8番出口から西へ約150m。徒歩約3分。



15号の表紙 デザイン: 本村信裕

江之子島文化芸術創造センター/enocoがお送りする「enocoニュースレター」。表紙と巻頭は、毎号異なる関西のクリエイターたちが担当します。15号の特集は「ダムができるまち」。現在大阪の北摂地域で建設中の安威川ダム周辺で起こっていることをお伝えします。表紙はダムの模型のアップ。この模型が現実となる未来に向かって、今どういったことが進められているのでしょうか。少しづつアウトラインして見ていきましょう。

www.enokojima-art.jp

15

|特集|

ダムができるまち 一出会いの場からつながる未来ー

大阪府北部を流れる安威川。京都亀岡市を水源とし、大阪市東淀川区で神崎川に合流する北摂地域最大の河川です。現在、安威川が流れる大阪府茨木市に安威川ダムが建設されています。ダム建設には様々な変化が伴います。地域や自然に及ぼす影響は大きく、周辺の地域づくりを考える必要もあります。そこでenocoプラットフォーム形成支援事業では、安威川ダム周辺環境の活用・保全に関するステークホルダーが集まるプラットフォームを構築し、多様な活動主体と対話をを行い、具体的な活動へと発展させるお手伝いをしています。

安威川ダム事業の経緯

- 昭和42年 北摂豪雨災害（安威川の下流域で洪水が起り、甚大な被害）
- 昭和46年 多目的（治水・利水）とする決定
- 平成21年 水需要予測の見直しにより治水ダムとすることを定める
- 平成26年 本体工事着手

大阪府では約50年もの間、様々な課題について国・自体・地域の間で協議を重ねてきました。安威川ダム（ロックフィルダム形式、高さ76.5m、長さ337.5m）の建設により100年に1度の大雨から下流域を守ることができます。

一 安威川ダムファンづくり会 ー

ダムは治水だけでなく、自然環境の提供や地域の活動の舞台になるなど、たくさんの恩恵をもたらす可能性があります。ダム完成後も地域の文化や資源が保全され、多くの人々に活用してもらうことを目指し、府民主導のプラットフォームづくりを行なっています。そのひとつが「安威川ダムファンづくり会」。

ダムや周辺地域に魅力を感じて集まる人々を「ファン」と名付け、環境活動や教育関係者、NPO団体、デザイナーやアーティスト等で構成される「ファンづくり会」を2013年度に発足。地域づくりのアイデアを出し合い、議論をし、ダムや周辺地域の活用や保全の取組みを進めるための活動を展開しています。「プロモーション部会」「環境部会」「アート・文化・教育部会」、そして2017年度からは「運営部会」を設置し、日常活動の運営とともに、継続的な運営の仕組みづくりも検討しています。定期的な会合のほか、2014年からは具体的なアクションとして毎年秋に安威川フェスティバルを開催しています。

写真は1/1000 安威川ダム周辺地立体模型(安威川ダム建設事務所にて展示)

安威川ダムファンづくり会メンバーによる座談会

安威川ダムファンづくり会の「運営部会」「環境部会」「プロモーション部会」「アート・文化・教育部会」各部会長に普段の活動や11月に開催される「安威川フェスティバル2017」に向けての抱負などを伺いました。（聞き手：enocoプラットフォーム部門チーフディレクター忽那裕樹）

ダムが環境に与える影響、自然との共生

瀬口 運営部会は今年からできた部会で、フェスに向けての各部会の調整役も担っています。今、特に力を入れてやっているのは「つなげる・つながる」ということ。子供たち、地域の方、大学生などの若い世代の人たち、様々な人がつながり、関わってもらえるかたちにしていきたいと思っています。

小村 私は環境部会を担っていますが、実際に安威川の水害を体験していました。住民、そして商店などが大変目にあいました。ですのでやはり、防災という観点は重要です。そして安威川は私にとっては長年の付き合いがある、普段着の自然。実は他の水系にはいない種類の生物がたくさんいる、とても豊かな普段着の自然なんですよ。

忽那 なぜそんなに豊かなんですか？

小村 海からのつながりと水源である亀岡からのつながりの中で、大きな堰などで隔たれることなく連続性があるんです。さらに川筋に対する土地、木や草、地層、空気などの好条件が整っていた、あるいは数百万年もの間に形成されたからだと思います。非常に豊かで魅力的な普段着の自然ですが街中の子供たちはそれを知らない。なので私は子供たちを川へ連れていくて一緒に遊んでいるんです。

忽那 水害があって対策が必要となり、ダム建設以外の方法も含めた検証もあったわけですよね。

連続性というものが多様な生態系を担保する一因である中、ダム建設についてはどう思われますか？

小村 ダムに限らず、人工的な建造物というのは自然負荷が大きいんです。しかし人間にとってインフラが必要。自然に対してばかり無理を強いるのではなく配慮しながら、自然と人間の折り合いをつけていくべきだと思います。

忽那 私もランドスケープを専門としていますが、自然との折り合いをつけていくこと以外に人が生きていく方法はないんですよね。ただ折り合いのなかたちは決まっているわけではない。絶えず動き続けているものに対して、考え続けて行動をするのが折り合いかと思います。

小村 ダムにしても構造物にしても、人間の営みの中にあるのですが、自然と折り合いがついていくと「田舎」のようになります。例えば棚田も、何千年も前から育まれてきた稻作文化の中で生き物が共生しているんです。水田と人の文化の中でそこを住処にして生きてきて、生態系ができたんです。ですのでダムについても、いずれ生き物が居ついてくれる、自分たちの環境を作ってくれるということを期待しつつ、バランスを考えながら折り合いをつける方法が互いにあればいいなと思います。それを次世代を担う子供たちにも伝えていきたいですね。せっかくダムというランドマークができるのだから、その周辺に対する興味や疑問を持って、楽しく学んでほしいと思います。

忽那 河上さんは茨木の中でもいわゆる「街」をフィールドに活動されていますが、ダムや里山を体験する、使いこなすことを考えてくださっています。

河上 私は事務所も住まいも茨木ですが、北部地域にはあまり行ったことがなかったし、ダムがどこにできるかも知りませんでした。でも市との協働事

業やファンづくり会、まちづくり活動を通して、北部地域に面白い人達がいて、彼らが現代のバーマカルチャーを生み出しているということを知りました。

忽那 ファンづくり会でも河上さんを通じて地域の色々な人が見えてくるという、まさにハブになってくださっています。コミュニケーションをとりながら進めていく、そして人を通して地域を知っていくことの面白さと楽しさを改めて気付かされました。

河上 空間デザイナーという仕事を、街や山といったフィールドも“空間”だと捉えています。空間の構成要素で一番大切なのは“人”で、その人たちとの対話は、店づくりや家づくりと同じように、まちづくりにおいても重要です。

安威川ダム資料館前には将来ダムの一部となる岩があり、メッセージが書かれています。
(地元愛溢れる言葉も!)

安威川ダム ファンづくり会（構成）

環境部会
アート・文化・教育部会
プロモーション部会
運営部会

忽那 原さんはそういった小村さんや河上さんの活動を知つてもらうためのプロモーション部会を担つてくださっています。



原 最初は、「安威川ニュース」という媒体作りからスタートしたのですが、その中でお話をうかがった増田昇先生（2013年ファンづくり会アドバイザー/大阪府立大学名誉教授）が「まず自然にインパクトを与えてしまうということは忘れないでおきましょう」とおっしゃっていたんです。どのように再生するかがひとつミッションで、そのために文化や産業を組み立てていかないといけないという話が私の中にずっと入ってきたんです。そこから、単なるプロモーションだけでなく、地域の方たちとの関係性や協働をいい方向に持つていて活動ができればと思って動いています。

忽那 原さんや河上さんはコミュニケーションの部分も担つていて、お二人のフィルターを通して見えてくるものは全体の共有資源ですね。

原 私たちの部会は河上さんの部会と協働しながら、サイクリングでダム周辺地域を巡るためのマップをつくったり、間伐材の活用などを進めているんですが、アイデアが出た時に、河上さんはまず人から考えるんですね。それが面白い。

河上 例えは「サイクリング」というキーワードに対して「誰がいるかな」と考え、「あの人とこの人がいるな」という風にキャスティングするんですよ。

忽那：それがパブリックなんですよ。何かを考える時に「他に誰がいかな？」と思う気持ち。1人でやることを2人で、さらに多くの人が必要となれば、自分1人では無理なので誰かの力を借りていく。行政の手も必要かもしれないけれど、自分たちの力でやっていくことはできないか、と考えることも大事。そういう考えでつくってきた土木施設って実は少ないんですよ。行政がつくって「はい、では地域の人を使つてください、管理してください」ではなく、地域の人や様々な人と話し合い、プロセスを共有し、公開していくことをこの安威川ダムではやっています。自分たちの表現や活動の場を自分たちで形成していく仕組みをつくりたいとずっとと思っていたので、いわばチャレンジもあります。

出会いの場、安威川フェスティバル

瀬口 そのため安威川フェスティバルはひとつの大事なプロセスですね。毎年、たくさんの来場者がありましたが、今年は特に茨木市内の人たちにも、フェスを通してダムのことを知つてもらいたい。

小村 受動的ではなく、能動的に参加してもらうことも大切ですね。来年から自分たちも何かやりたいな、手伝いたいなと思うような人が少しでもくるように持つていただきたいです。それがファンづくり会のあり方にも直結してくるはず。

原 あとはやはり継続性ですね。今はまだ行政のイベントと捉えられがちで

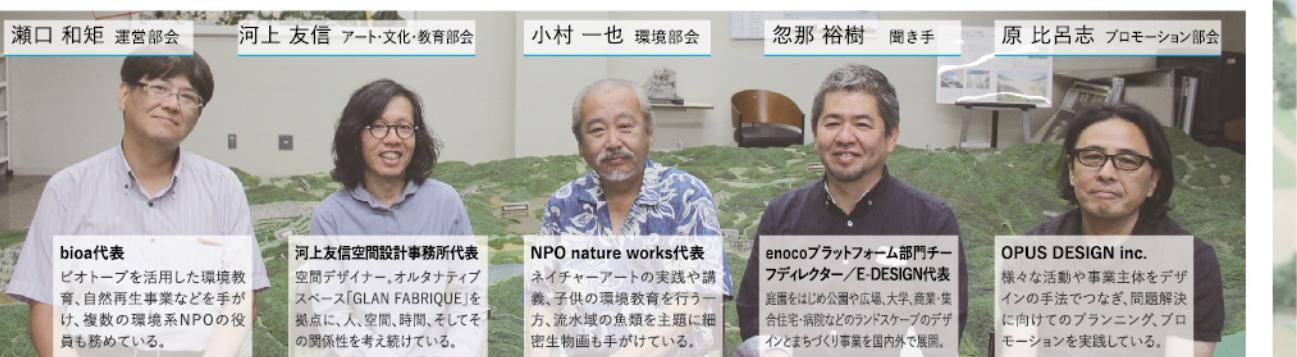
すけど、特性を持った地域のお祭りになっていくことが課題ですよね。さらに茨木市民のお祭りとして定着すれば、もうひとつ、フェスが普段の活動のお披露目の場となり、様々な人に認知され、だんだんと事業性も見えてきてやがて自立していく…というサイクルをつくりていきたいです。ただ、継続していくがゆえの課題もきっと出てくるでしょうね。今年で4回目なので次の世代にどう渡していくかということも考えなくては。

忽那 イベントは打ち上げ花火だからダメという話はよくありますが、そうではなく、1日だけ日を決めるからみんな一度集まりましょう、というのが私にとってのフェスです。毎日の清掃活動や、1ヶ月に1度、年に1度の様々な活動が会員の場所をつくるだけ。日常行為の延長にハレの舞台をつくり、そこで互いの活動に会う・気づく、そういう瞬間と場を作りたい。

原 様々な日常の活動が起るための起爆剤としてフェスがあればいいですね。

河上 地域づくりを担う人って、役を与えたり育てたりするのではなくて、見つけ出すものなんですね。その出会いの機会がフェスだと思います。

瀬口 出会いの場、そしてさらに共感の輪が広がる場になればと思います。



安威川ダム周辺情報

ダムができる安威川周辺エリアには魅力的な場所がたくさん！ぜひ一度足を運んで、自分なりの楽しみ方を探つてみてください。

ポイント

1 街との距離が近い

安威川ダムは茨木市の市街地エリアから車で15~20分という全国でもまれな都市型のダム。安威川沿いの景色を見ながらのサイクリングもおすすめです。

▶茨木市サイクリングマップはWebで公開中



ポイント

2 自然豊かな里山

ダム周辺や茨木市北部は、自然豊かな里山地域。大阪ではこの地域でしか見られない動植物を探してみたり、高原野菜を買ってみたり、広大な自然を楽しんでみては。

▶茨木市里山センター

(廃校を活用した自然体験施設)
<http://www.ibasato.net/>

▶見山の郷

(地元の新鮮な野菜などの販売)
<http://miyamanosato.com/>



ポイント

3 みる/知る/味わう -多様なコンテンツ-

建設予定地を実際に見下ろすことのできるダム資料館とダム周辺地の1/1000の立体模型を見ることができる情報交流センターではダムカードの配布が。そして今話題なのは安威川ダムカレー。続々と店舗が増えています。

▶安威川ダム資料館

開館日:毎週木曜日 13:00~16:00 / 第1・第3土曜日 10:00~16:00
※祝祭日休館、その他臨時休館あり。
アクセス:阪急茨木市駅より阪急バス89番「車作」行き乗車
「大門北」停留所下車徒歩10分

▶安威川ダム情報交流センター

開館日:平日(月曜日~金曜日) 10:00~16:00
住 所:大阪府茨木市大住町8番11号(安威川ダム建設事務所5階)

▶安威川ダムカレーの最新情報は茨木市HPにて



ぜひ参加してみませんか？

安威川フェスティバル 2017 2017年11月12日(日)10:00~15:00

~体験して、学んで、楽しむフェスティバル~
周辺地域・茨木の新たな魅力に出会える場

会 場 大阪府茨木市桑原ふれあい運動広場・桑原自治会館
(会場及び周辺に駐車場はありません。阪急茨木市駅から無料直通送迎バス運行)

内 容

- ・行列必至の「ダム工事現場体験ツアー」(無料)
- ・自転車で安威川周辺を楽しむための「サイクリスト・ミーティング」(無料)
- ・間伐材を使った「楽しい丸太切り体験」(無料)
- ・安威川を味わう!「アマゴのつかみ捕り&塩焼き販売」(有料)
- など、参加して楽しむことのできるプログラムが多数。

▶ 詳細はAIGAWA.jp (<http://www.aigawa.jp/>)にてチェック！



大阪府茨木市
MAP





「これから」のイベント情報

coming events

enocoのそだん[eno so done!]2017 公開フォーラム&個別相談会



2014年度よりスタートした「enocoのそだん[eno so done!]」は、アートやデザインを活用した地域活性化、各種事業の広報力アップや地域のプランディングなど、様々な課題に取り組む方々の悩みに、enocoが応えるプロジェクトです。これまで主に大阪府域の市町村職員を中心に活用いただき、具体的な成果もみえてきました。

今年のeno so done!は、多くの方々が共通に抱える課題をテーマにした公開フォーラムと、enocoの経験豊富なスタッフがマンツーマンで相談にのる個別相談会の2本立てで実施します。

公開フォーラムはSNSがテーマです。各自治体ではFacebookなどを導入して「いいね」の数を競い合っていますが、もはや小手先のアイデアや瞬間的なインパクトに頼るだけでは、持続的な活用は限界にきていると思われます。そこで自治体にとってソーシャルネットワークとは一体何なのか、その目的をどこに設定すべきなのか、改めて考え直す機会を設けます。

個別相談会は10月から月2回のペースで実施し、芸術文化や地域活性化など、幅広い課題を受け付けます。個別の事情に応じてじっくり対応しますので、ぜひこの機会を活用ください。

[公開フォーラム]

日時 2017年12月7日(木)午後

テーマ SNSの活用とこれから(仮)

定員 50名程度

参加費 無料(当日先着順受付)

[個別相談会]

日時 2017年10月より月2回開催

相談時間 1件につき60分~90分程度

参加費 無料(事前申込制)

参加お申し込み方法はenoco webサイトをご覧ください。

enocoの学校特別講義 自分のアイデアをカタチにするためにしなかった3つのこと



写真:川瀬一絵

「enocoの学校」は、既成概念にとらわれない自由で柔軟、かつ創造性豊かな発想や思考を学び、社会課題に取り組む人を育てるプログラムを2013年より開講しています。5年目に入った今年度は特別講義として普段は受講生しか参加できない講義を一般公開します。

「自分のアイデアをカタチにするためにしなかった3つのこと」と題して、「選ばない」ということから服部さんの思考をひもときます。

—

日時 2017年11月18日(土)13:00~16:00

会場 enoco 地下1Fカフェ横スペース(仮)

受講費 1000円

定員 50名(事前申込制/先着順)

講師 服部滋樹(graf代表)

参加お申込みはenoco webサイトにて専用フォームからお申込みください。

えのこdeマルシェ vol.11 古書と手仕事



イラスト:ミヤザキ

季節ごとに開催しているマルシェ。秋の特集は古書と手仕事です。

手仕事によって一つひとつ丁寧に作り出されたものは、大量に生産されたものとは比較出来ない魅力があります。今回のマルシェには、古書・雑貨・ワークショップ・たべものなど、様々なジャンルの手仕事のお店が集まります。一期一会の出会いを楽しみながら、お買い物や作家の方々とのおしゃべりも楽しんでみてください。販売だけでなく、ワークショップやトークイベントなども開催します。

—

えのこdeマルシェvol.11

古書と手仕事

日時 2017年10月28日(土)11:00-17:00

会場 enoco駐車場、ほか

入場無料/小雨決行(荒天の場合enoco館内で実施)

【出店店舗】

○古書

Berlinbooks、Used Books 九龍堂、ON THE BOOKS、SUS~くらしと本のみせ ススウ~、&'s(アンヅ)、寸心堂書店、本は人生のおやつです!!、町家古本はんのき、ニッチでセンチおさがり本屋(本)ばんばんばん

○雑貨とワークショップ

Ayumi!、atelier curieux + GREEN、HAPPY GO LUCKY MARKET、iTohen、YAOLA、西淡路希望の家とFUYUNIRE、陶刻家 由上恒美、カラー＆ファッションドイネーターchihiro、日の出製作所

○たべもの

millibar、森脇酒店、El calavera、ウステトパン、メゾンドボワットとバレド オーサカ、ユウの家、あすかマルシェ、ニコノパン

アーティスト・サポート・プログラム enoco[study?]#5 公募



enoco[study?]#4 冬木遠太郎「TA NEGATIVE EVAGINATE」展示風景
写真:出地玲以

2013年にスタートした若手アーティスト支援と育成のためのプログラムenoco[study?]。今年も「社会や他者との関わりを通してアートの可能性を拓く」ための実験や実践を行うアーティストを公募し、制作と発表のサポートを行います。昨年度まで入選アーティストは3ヶ月間enocoをベースに制作を行い、その成果をenoco館内のギャラリーにおいて展覧会形式で発表するという条件で実施してきましたが、今年度より成果発表の形式や場所を自由とするプログラムへとリニューアル!

ただし、enocoと対話・協働しながらプログラムを進めること、制作プラン・プロセスを一般に公開するという方針は変わりません。社会や他者に自己をひらきながら、[study=勉強する、研究する、検討する、観察する、練習する]という姿勢で表現の実験・実践を試みるプランを広く募集します。

—

募集人数

○1名もしくは1グループ

サポート内容

○制作費補助(20万円)、広報、アトリエ提供、制作協力など
※応募方法、応募条件等の詳細はenoco Webサイト参照

2017年10月16日～11月30日:公募期間

2017年12月中旬:入選アーティスト発表

2017年12月中旬～2018年3月:制作

(中間レビュー:2018年1月末頃を予定)

2018年3月以降:発表

エキシビションカレンダー 2017年10月 - 2018年1月

exhibition calendar

月	会期	時間	展覧会名	ルーム
10	10(火) - 15(日)	10-18(日曜10-15)	第五回西日本創作表装展	[ルーム1]
	10(火) - 15(日)	11-18(日曜11-16)	新陶彫 大阪展	[ルーム4]
	17(火) - 22(日)	11-18(日曜11-16)	チャーチル会大阪展	[ルーム1]
	24(火) - 29(日)	11-19(日曜11-16)	第5回 木版画&水彩画2人展	[ルーム2]
	24(火) - 29(日)	11-18(日曜11-16)	Capacious展覧会 #6 あなたが「こだわり」と呼んでいるものは、私にとっては「ふつう」かもしれない	[ルーム3]
	24(火) - 29(日)	11-19(日曜11-16)	〈西淡路希望の家+大阪成蹊大学表現教育コース〉×みなさんでできあがる作品展一さがす・みつける・つたえあうー	[ルーム4]
	31(火) - 11/5(日)	11-19(日曜11-16)	第16回国画会大阪作家展	[ルーム1,2,3]
	31(火) - 11/5(日)	10-18(日曜10-16)	ペントハウスの会展	[ルーム4]
	7(火) - 12(日)	10-18(日曜10-16)	第63回 表具内装工芸展	[ルーム1]
	7(火) - 12(日)	11-18(日曜11-16)	「ミラクル流星群2017」吉田佳寿展	[ルーム2]
11	7(火) - 12(日)	10-18(日曜10-16)	第16回 創友会展	[ルーム4]
	14(火) - 19(日)	11-18(日曜11-16)	\GUSH! /	[ルーム1]
	14(火) - 19(日)	10-20(日曜10-16)	竹本博文展	[ルーム2]
	14(火) - 19(日)	10-20(日曜10-16)	大阪府土曜会・趣味の作品展	[ルーム4]
	21(火) - 26(日)	11-19(日曜11-16)	創立70周年記念 塚研展	[ルーム4]
12	22(水) - 12/16(土)	11-19	20世紀の写真芸術 学生がつくる大阪新美術館・enocoのコレクション展	[ルーム1,2]
	28(火) - 12/3(日)	10-19(日曜10-16)	art4smile 2017	[ルーム4]
	※展覧会の予定はありません			[ルーム4]
	9(火) - 14(日)	未定	第4回写真クラブ松の木会	[ルーム1]
1	12(金) - 28(日)	11-18(最終日のみ11-16)	大阪府20世紀美術コレクション「浅野竹二展」(仮)	[ルーム4]
	23(火) - 28(日)	11-18(日曜11-16)	大阪成蹊大学芸術学部美術コース表現教育コース4年生展	[ルーム1]
	30(火) - 2/4(日)	未定	TRANS NATIONAL ART 2018	[ルーム1,2,3]

くわしくはWebサイトをご覧ください <http://www.enokojima-art.jp/>

PICK UP

20世紀の写真芸術 学生がつくる大阪新美術館・enocoのコレクション展

主に20世紀の美術作品を収集してきた大阪府と、現在新しい美術館を整備中の大阪市は、それぞれ特徴的な写真作品のコレクションを形成してきました。

大阪府は大阪で活躍した写真家たちと、1990年に開催された国際花と緑の博覧会の際のパビリオン「花博写真美術館」に展示された日本および世界の写真家たちの作品をコレクションしています。一方、大阪市の新美術館コレクションは、第二次世界大戦前から大戦後に大阪を中心に活躍した浪華写真倶楽部や丹平写真倶楽部の写真家たちの作品と、ほぼ同じ時代のヨーロッパで前衛的な活動をした作家たちの作品、そして現代作家たちの写真作品がその中心です。

この2つのコレクションから、インターンに応募した学生たちが選んだ約100点の展示により、写真文化の原点とその歴史の豊かな多様性に触れていただきます。

会期 | 2017年11月22日(水)~12月16日(土)

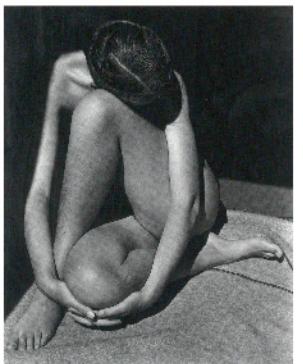
※月曜日休館 11:00~19:00

会場 | enoco 4F ルーム1,2 入場料 | 無料

主催 | 大阪府立江之子島文化芸術創造センター、大阪新美術館建設準備室

後援 | 朝日新聞社

助成 | 一般財団法人 地域創造



エドワード・ウェ斯顿
《裸体》

レビュー review

トコトコダンダン(木津川遊歩空間)

プラットフォーム形成支援事業のプロジェクトの一つとして、住民ワークショップやコンペ設計をenocoが大阪府と協働して行いました。

木津川遊歩空間のプロジェクトを最初に知ったのは、2013年にU-35という若手建築家を紹介する展覧会を見たときだった。もっとも、代官山で開催される若手を対象としたSDレビューもそうだが、実現の見込みがかなり薄いプロジェクトがしばしば出品されるので、本当にできるのかなと思ったのも事実である。だからこそ、完成したと聞いて驚いた。なぜなら、最近のコンペは実績主義が重視されるため、参加のハードルが高く、若手の新規参入が困難なのが当たり前になっているなかで、応募した当時、まだ事務所勤務の20代の岩瀬諒子が選ばれ、しかも実現したからである。さらに、これは土木のコンペだ。建築なら大小さまざまなコンペが存在するが、土木の分野ではコンペ自体が必ずしも多くない。ゆえに、これは二重の意味において画期的なプロジェクトである。コンペに向けて、そしてコンペの後も、地域住民とのワークショップを実施し、公募によって「トコトコダンダン」の愛称も決定した。

3.11の被災地では、復興建築がコミュニティに注目するのに対し、土木では巨人の壁とでもいうべき防潮堤が建設されている。このように人を寄せ付けないものになりがちな土木だが、木津川遊歩空間は全体を段状に造形することで、細やかにスケールを分節し、水際の楽しさを引きだすべく、親水性にも配慮した。ここは建築家ならではの空間感覚が生かされている。ところで、模型で起伏のある地形を表現するとき、等高線ごとに素材を切って積層させるため、段々のかたちが出現する。今回のデザインはこれと似ていよう。とすれば、地形を抹消する土木ではなく、人工的な地形をもたらす土木ではないか。また完成して終りではなく、今後、人々がどう使うかで真価が試されるプロジェクトである。個人的に興味深いのは、周辺の敷地が将来いかに変化していくかだ。都市の裏側だった場所が表になることで、まわりの建築にも影響を与えるだろう。それは土木ゆえに可能なロングスパンの空間への介入である。

五十嵐太郎

1967年生まれ。建築史・建築批評家。1992年、東京大学大学院修士課程修了。博士(工学)。現在、東北大学大学院教授。あいちトリエンナーレ2013芸術監督、第11回ゲネチア・ピエンナーレ建築展日本館コミッショナー、「恋学展示—恋から見える世界ー」の監修を務める。第64回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。『日本建築入門-近代と伝統』(筑摩書房)、『日本の建築家はなぜ世界で愛されるのか』(PHP研究所)ほか著書多数。



木津川左岸トコトコダンダン(木津川遊歩空間)。設計は岩瀬諒子設計事務所。



日常風景。地域の方々の散歩や憩いの場になっている。



岩瀬諒子氏(写真左)と地域住民とのワークショップ風景



活用のための有志が集まる「トコトコダンダンを楽しむ会」では清掃や水やりなどの日常管理、イベント開催などを行う



「これまで」のイベント情報 past events

昨年度も開催した、楽器を演奏できなくても、楽譜が読めなくても音楽を作って楽しめるワークショップ「ストーリーテリング・イン・サウンド」。今回は、ドイツの現代音楽専門オーケストラ「アンサンブル・モデルン」に所属するヴィオラ奏者の笠川恵さんを講師にお迎えして2日間に渡り開催しました。

参加者はマイ楽器のヴィオラ(!)を持ってきた中学生から、学校で使っている鍵盤ハーモニカを持参した子、いい音が鳴りそうな空きピンなど日用品を持ってきた子まで様々。ワークショップは笠川さんが奏でるヴィオラの音に合わせて身体のウォーミングアップからスタートし、持参した楽器や日用品にふれながら、どんな音が出るのか可能性を探りました。2日目には子供たちが主体となって発表会! 参加者全員で5分を超える素晴らしい演奏(パフォーマンス)を披露しました。

ワークショップの詳細はenocoブログでもご紹介しています! そちらも是非ご覧ください。

高橋真理子／enoco企画部門

タチョナ×enoco企画 ストーリーテリング・イン・サウンド vol.2

2017年7月29日・30日



えのこdeマルシェ(春の古本まつり/おとなの夜市)

2017年5月27日・8月26日



今年も春と夏に「えのこdeマルシェ」を開催しました。今回からenocoに隣接するマンション周囲に広がる公開空地まで会場エリアを広げ、江之子島をぐるりとめぐることができるようになりました。

今年で3年目に入り、夏で10回目を迎えたマルシェ。当初は、関西各地からお越しただくことが多い印象でしたが、今ではenocoのある区にお住いのファミリーや近所の子供たちが連れ立って遊びに来てくれるようになりました。

運営面でも、地下の古書店ON THE BOOKSや、enocoが関わりのあるクリエイターの方々と一緒に企画していく仕組みがうまく機能しています。会場内にスナックスタイルの交流の場を設けたり、工事現場などで見かけるバイロン(三角コーン)を簡易テーブルに変身させるオリジナルツールを製作したりといった実験の場にもなっています。また、夏のマルシェでは、大学生インターンの研修プログラムの一環として、会場サイン計画やアンケートをとる仕掛けを考えたりしました。もっと地域の方々が気軽にenocoに来てくれたらしいなという思いで始めたマルシェですが、今はenocoをとりまく様々な特技とチャレンジ精神を持つ人々が協働する場となっています。今後も協力者や出店者の皆さんと新しい取り組みを模索し、面白く動き続ける場となるように育てていきたいです。

吉原和音／enoco企画部門

enocoでは2013年から講義シリーズ「enocoの学校」を開催しています。

「enocoの学校」は、既成概念にとらわれない自由で柔軟、かつ創造性豊かな発想や思考を学び、社会課題に取り組む人を育てるプログラムです。関西内外から多彩な講師陣を迎えての講義やフィールドワーク、今年度より新設された「えのこゼミナール」で、より実践的なプログラムとして、アイデアの解像度を上げる思考法と会議をデザインするファシリテーション法をワークショップ形式で学んでいきつつ、最終的にはチームごとの企画を練り上げ、一般公開のプレゼンテーションまでを行います。

今回は大学生・行政職員・会社員・ものづくりに携わる人と様々なバックグラウンドを持つ方々が参加し「enocoの学校」第5期が始まっています。

さて、そんな「enocoの学校」はいきなりの城崎温泉でのオリエンテーション合宿からはじまりました。

城崎は関西の奥座敷の温泉郷として古くから有名ですが、現在は温泉とアートのまちに変わっています。そのきっかけになったのは2014年に城崎国際アートセンター(KIAC)が

できしたことでした。

城崎で、KIACで何が起きているのかについてKIAC館長兼広報・マーケティングディレクターの田口幹也さんにお話を伺うことが城崎を宿泊先に決めた大きな理由でした。夕食後は、enoco PFディレクターの忽那裕樹からの「城崎のスキとキレイ」を見つけるというテーマのもと、まち歩きにでかけました。それそれで温泉やお土産屋さん、裏路地などを歩き、見つけてきたものを翌日にKJ法を用いたワークショップを実施して発表しました。1泊2日の濃密な時間で、みなさんの顔が変わった様に感じました。

バックグラウンドが多様な受講生たちだけにそれぞれが関心のある課題もまた多様ではあるのですが、すでに大きな共通するイメージが立ち上がりつつあるを感じていて、今後どんどん受講生の皆さんのがんばりが変わっていくことが楽しみです。

▼「enocoの学校」facebookページでは講義レポートなどを発信しています。<https://www.facebook.com/enoco.school/>

古谷晃一郎／enoco企画部門



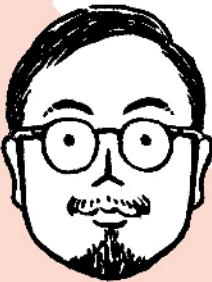


enocoのひとびと people



今、楽しみなのは、enocoクラブの結成。地域で活動する素晴らしい人々がつながることを夢見ています。誰かがやりたいことを、できるよう協力したり、自分がしたいことがあれば、協働して進めていく。そんな応援しあえる仕組みをつくりたいと思ってます。興味のある方はぜひ、声をかけてください!!(プラットフォーム部門 忽那裕樹)

enoco column 14
南北反転地図を見よ。
今、瀬戸内へと向かう。



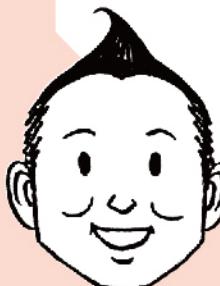
服部 滋樹

graf代表／クリエイティブディレクター／デザイナー。
1970年大阪生まれ。美大で彫刻を学んだ後、インテリアショップ、デザイン会社勤務を経て、1998年にインテリアショップで出会った友人たちとgrafを立ち上げる。建築、インテリアなどに関わるデザインや、ブランディングディレクションなどを手がけ、近年では地域再生などの社会活動にもその能力を発揮している。京都造形芸術大学芸術学部情報デザイン学科教授。

「瀬戸内経済文化圏OPEN SUMMIT」 11/4(土)13~18時 六間道3丁目商店街(神戸市長田区庄田町3丁目)にて
▶詳細:<https://www.shinnagata-artcommons.com/setouchi>

Voyage d'Art
enoco館長 甲賀雅章の
アートの航海

Vol. 10



「全てを丸投げにするのではなく、まずは方向性を決め Art Directorを採用するところから始めよう。」



夏から秋にかけては、ヨーロッパも野外フェスティバルのシーズンである。6月にイタリアビエモンテ州人口2万5千人弱の都市フォッサーノで開催されたコンテンポラリーサーカスフェスティバルを皮切りに、アートの航海2017年後半戦は始まった。7月はフランスのシャロン、続いてアヴィニョンの国際演劇祭。9月は韓国光州で毎週開催されるフリンジフェスティバル、10月は韓国最大のソウル・ストリート・アートフェスティバルのスピーカー、審査員として招かれている。日本と違ってどのフェスティバルもそれぞれの特徴や達成目標があって面白い。でないと、国や地域からの予算確保が難しいだろうし、やはり

Art Director制度を敷いていく点が大きく影響していると思う。彼らは自分の利益ではなく、使命として社会成果を達成するために全力を尽くす。そこにはプライドもあるし責任も大きい。日本のように、広告代理店やイベント会社に丸投げなんてことはない。最初の段階からこの連載も今回で10回。一旦最終回としたい。次号からは、「モノ好き館長の四方山話」がスタートします。乞うご期待!



奥能登国際芸術祭に行ってきた!そこは様々な文化や人が北から南から大陸から漁者・集積し独特の文化がある「さいはて」の地でした。大阪も本来はそういう土地で「ごちゃごちゃ」したものから資源や資本が生み出されてきたはず...enocoもそんな場所でありたいなあと考えさせられました。(企画部門 高岡伸一)



食欲の秋、芸術の秋、そしてイベントの秋到来。enocoの他にもイケフェス大阪や船場博覧会など、色々なイベントに関わっているので身体がいくつあっても足りません。イベントの裏でがんばる人たちの存在を少し気に掛けてもらえると、世の中の事務局はもっとがんばれます!(企画部門 高岡伸一)

大阪府20世紀美術コレクション

1987年から2007年にかけて大阪府が収集した「大阪府20世紀美術コレクション」。総数およそ7900点の中から、enocoスタッフのおすすめ作品を毎号1点ずつご紹介します。

この一点!



「たそがれ(相川町)
岩宮 武二 (1920-1989)

1956年 | 40.6cm×50.8cm | タイプCプリント

岩宮武二は1920年に鳥取県米子市に生まれ89年に没するまで、日本を代表する写真家として活躍しました。生前、岩宮は「今に生きる」を座右の銘に、今現在生きていることを絶えず意識し、その視点に立って過去から現在、未来へと続いている事象や形を豊かな感性で見つめる写真家として活動しました。

今回ご紹介する《たそがれ》は1956年(昭和31年)頃に佐渡島の相川町(現・新潟県佐渡市)で撮影されたものです。この町はかつて佐渡島の中でも金山や奉行所があり、島の中心でした。しかし、金の算出は1940年(昭和15年)ごろがピークといわれ、岩宮が佐渡に渡ったときには、そこはかともなく寂しさが漂い出していたのではと思われます。

さて、この作品に目を移すと、夕陽でうっすら赤みが増している、漁師町の軒の下にぶら下げられたたこに目が行きます。板戸やたこの足で垂直性が強調された画の中にタコの足の吸盤の丸い形や足先の螺旋の動きが楽しく

なる写真です。ガラス越しにのぞく電球の丸さも吸盤と共にリズムをともなって、そこに生きる市井の暮らしを写し撮っています。島好きとしては一度訪れてみたい佐渡島に思いを馳せることができる、お気に入りの一枚です。

古谷 晃一郎
enoco企画部門

オン★ザ★レビュー

enoco地下1階の古書店、オン・ザ・ブックス米田店長によるブックレビュー。アートブック・写真集・デザイン・建築・ファッションからマンガ・音楽・映画・オカルトまで、多彩なラインナップの中から、今の気分をあらわす1冊をご紹介いただきます。



チエイサー

今回のオンザレビューは本ではなくDVDです。たまにDVDやCDも入荷します。最近は新品のDVDがえらく安いので、中古になると100円~500円の爆安価格で提供しています。さて入荷した「チエイサー」は2008年公開の韓国映画。僕は韓国映画が大好きで、こちらはマイベスト10に入るお気に入り。内容は韓国映画といえばのクライムサスペンス。とにかくエグい!怖い!胸クソ悪い!…でも面白い!!見終わった後の息苦しさが癖になります。ごくごく簡単なあらすじ。風俗店を経営する元刑事と頭の切れるサイコ野郎との追跡(チエイサー)劇。狂気じみた役者の演技、それを後押しする迫力の演出。そして始終続くヒリヒリする緊張感と、全編に淀んだ湿度のような不快感。かなり好き嫌いの分かれる映画ですが、ご興味のある方は是非店頭で。※こちらはオンライン販売をしていません。

ON THE BOOKS

営業時間:11:00~20:00(月曜日定休)
掲載の書籍は店頭・オンラインストアで
販売中 www.on-the-books.info

米田 雅明
オン・ザ・ブックス店長



地域情報 ページ

area info

このページは、enocoのまわりで活動するみなさんによる1ページ提供し、活動を紹介してもらうページです。今回は「ぼうさいラジオ（仮）」のDJの西くんに、enocoのお隣の「津波・高潮ステーション」と自身の活動を紹介してもらいました。

今号の担当者：
「西くん from ぼうさいラジオ（仮）」さん



津波・高潮ステーション

体验から知識を

津波・高潮
ステーション

（仮）

かつて大阪を襲った高潮や、近い将来必ず大阪を襲うと言われている南海トラフ巨大地震・津波発生時の対応を、子どもから大人だけでなく専門の方まで、幅広く学べる施設です。

津波・高潮に関する資料や防潮鉄扉模型、南海トラフ巨大地震に伴う浸水想定図の展示など、防災啓発に関する資料展示、そして南海トラフ巨大地震津波災害の体感シアター「ダイナキューブ」。3D映像の包みこまれるような迫力の中で恐ろしい津波から安全に避難するまでの行動を疑似体験することができます。

災害時、とっさの判断による行動を迫られる場面は非常に多く、その時、過去に体験していないことを、実際に行動に移すのはとても難しいでしょう。

施設での様々な体験を通して、災害への備えについての知識・知恵を習得してください！

つなたか

インフォメーション

入館料：無料

開館時間：10:00～16:00

休館日：火曜日（祝休日の場合は翌平日）、年末年始

住所：〒550-0006 大阪市西区江之子島2-1-64

TEL：06-6541-7799 FAX：06-6541-7760

[/www.pref.osaka.lg.jp/nishiosaka/tsunami/](http://www.pref.osaka.lg.jp/nishiosaka/tsunami/)

2017年11月12日（日）
10:00～14:00
【百年続く、楽しさ求めて】
11月5日は世界津波の日。
繰り返しへ起こる津波災害への
対策について考えていただくきっかけとして、地域のお祭りのようなイベントを開催します。

みなさん、ぜひ遊びに来てください！（^o^）

2017年11月25日（土）
11:00～16:00
【What's 防災？】
テーマは、「食」。日常的な「食」を通じて、防災について考える1日をお届けします。

ぼうさいラジオ（仮）

（仮）

私（西くん）は、enocoとその近くだけで聴くことができるえのこじま凹凸ラジオで津波ステの協力のもと「ぼうさいラジオ（仮）」という番組を放送し、メインDJを担当しています。

この番組は、防災知識・情報の伝達とともに、防災についてともに考える場。防災について聞いてみたいことを質問するもよし、物申すもよし。地域防災の発展のため、みなさまからのご意見や「こんなことが知りたい！」というリクエスト、そして放送へのご参加をお待ちしています。

▼放送スケジュールは enokojima.info/radio にてご確認ください。

（仮）

えのこじまだけで聴ける！
凹凸ラジオ（FM89.2）も放送中！



enocoのある大阪市西区江之子島では、アートやデザインのちからで、暮らしをより楽しむための文化活動「DECODOCO（デコボコ）」が行われています。

www.enokojima.info

「猿とモルターレ」 アーカイブ・プロジェクト報告会



震災の記憶の継承を試みた砂連尾理のパフォーマンス公演「猿とモルターレ」の記録上映と哲学カフェ、酒井耕、砂連尾理、瀬尾夏美による朗読ワークショップと映像ワークショップを開催します。

日時：10月28日（土）、29日（日）

○10月28日（土）13:00-17:10

記録映像上映 + てつがくカフェ

料金：1,500円 ※事前申込不要

○10月29日（日）11:00-16:30

朗読ワークショップ + 映像ワークショップ

料金：1,500円 ※要事前申込

会場：フラッグスタジオ

アーカイブプロジェクト・メンバー：小森はるか（映像作家）、酒井耕（映画監督）、砂連尾理（振付家、ダンサー）、瀬尾夏美（画家・作家）

※詳細は公式ウェブサイトをご覧ください。

<https://sarutomortale.tumblr.com/>

楽しく学ぶ狂言入門 和楽の世界 狂言と遊ぼう!!



和泉流狂言師の小笠原匡さんによる、「楽しく学ぶ狂言入門 和楽の世界 狂言と遊ぼう!!」をフラッグスタジオにて開催します。レクチャー＆デモンストレーション、体験コーナーに「柿山伏」の公演と、狂言鑑賞が初めての方でも楽しんでいただける内容となっています。600年の伝統を持つ「日本最初の喜劇」である伝統芸能「狂言」。ぜひこの機会に体験してみてください。

日時：12月24日（日）12:00 - 15:00

会場：フラッグスタジオ

料金：無料（未就学児入場可/入退場自由）

小さなプレゼントor投げ銭をお願いします。

※セント・マーティン・オーケストラの情報はこちら <http://smo.main.jp/>

その他、卓球教室やヨガ教室など定期講座も開催中。くわしくはFacebookページ、
ならびに、えのこじまの情報サイトwww.enokojima.infoをご確認ください。

www.enokojima.info/radio

